

(別記第 6 号様式)

令和 8 年 2 月 1 2 日

玉名地区租税教育推進協議会会長 様

学校名 熊本県立玉名高等学校附属中学校

校長名 村山 浩之

租税教育実践報告書

実践項目	実施月日	時間数	実践内容
教科書配布	4 月	1 時間	・ 「教科書無償」 配布の経緯と意義について
税に関するアンケート①	5 月		・ 税に対する生徒の意識調査
租税教育導入	5 月	1 時間	・ 税金についての話
租税教室 (3 年)	7 月 3 日	1 時間	・ 「税の役割と身近な税の使い道」 について考える。
税の作文の作成指導 (3 年)	7 月 3 日	1 時間	・ 税に関する作文の作成についての指導と作成
税の作文の募集	7 ~ 8 月		・ 税の作文募集
税の作文表彰	1 2 月		・ 税に関する作文の表彰・発表
社会科授業実践 特設授業	1 2 月	1 時間 1 時間 4 時間	・ 3 年公民分野「地方財政」 「財政と国民の福祉」 1 時間目：テーマ確認・探究 2 時間目：探究活動 3 時間目：発表 4 時間目：フィードバック・感想記入
税に関するアンケート②	1 月		・ 税に対する生徒の意識調査 (変化の様子)
実践のまとめ	2 月 1 0 日		・ 活動のまとめと報告書の作成

令和7年度租税教育実践成果報告書

学校名 熊本県立玉名高等学校附属中学校

校長名 村山 浩之



1 令和7年度の実践計画

実践項目	予定期日	実践内容	備考
教科書配布	4月	・「教科書無償」配布の経緯と意義について	夏休みの課題
税に関するアンケート①	5月	・税に対する生徒の意識調査	
租税教育導入	5月	・税金についての話	
租税教室(3年)	7月3日	・「税の役割と身近な税の使い道」について考える。	
税の作文・標語の作成指導(3年)	7月3日	・税に関する作文・標語の作成についての指導と作成	
税の作文・ポスターの募集	7～8月 (夏休み期間中) 9月提出	・税の作文やポスター作成の募集	
社会科授業実践	11月 1月	3年「地方財政」 3年「財政と国民の福祉」	
税の作文・標語・ポスターの展示	10～11月	・税に関する作文・標語・ポスターを展示し、税に関する興味関心を高める	
税に関するアンケート②	2月	・税に対する生徒の意識調査(変化の様子)	
実践のまとめ	3月	・活動のまとめと報告書の作成	

2 令和7年度の実践内容

(1) 税に関するアンケートの実施

「税」に関する生徒の意識や知識を把握するために、第3学年を対象にアンケート調査を令和7年5月、令和8年1月の2回実施した。アンケート調査はタブレットを活用し、Formsで回答を集約した。

【質問項目】

1. 税金について、興味関心がありますか。(ある/多少ある/あまりない/ない)
2. 税金のことに関する知識はありますか。(ある/多少ある/あまりない/ない)
3. 税金に関する知識は必要と思いますか。(必要/多少は必要/あまり必要ではない/必要ない)
4. 税金に関する問題点は何だと思いますか。(記述形式)
5. 将来、税金をきちんと納めたいと思いますか。(思う/多少は思う/あまり思わない/思わない)
6. 5の回答の理由を書いて下さい。(記述形式)
7. 授業の感想(記述形式)

(2) 「租税教室」の実施

租税教育の推進にあたり、税に対する関心を高めるとともに、その意義や役割について正しく理解させることを目的として、令和7年7月3日(水)第4校時に第3学年を対象とした「租税教室」を実施した。講師として税理士法人東パートナーズの税理士・東吾郎氏を招聘し、租税教育用アニメーション「ご案内します アナザーワールドへ」を用いて税の概要や役割について学習した。生徒の生活に身近な題材を扱うことで、税が社会に生かされていることを実感させ、租税に対する理解と関心を深めることができた。



「ご案内します アナザーワールドへ」
◆ある若い会社員が「税なんてなくなればいい」と言った時から、彼の身の回りは税のない世界になってしまった。果たして、税のない世界はどのような社会なのか？彼は税のない世界で、幸せに生活できるのか？

(3) 「税についての作文」への取り組み

本校では、先に実施した「租税教室」での学びを振り返ることで、生

徒は税の意義や役割について知識を得た上で、自らの考えを論理的に展開することができた。生徒の多くは、学習内容に基づき「自身の生活と税の接点」を具体的かつ多角的な視点で記述していた。また、作文にあたり家庭内で税について対話したり、資料を共に閲覧したりすることもあったようで、学校での学びが家庭における租税教育への契機となったことは大きな成果である。

完成した作品を「中学生の税についての作文」（全国納税貯蓄組合連合会・国税庁共催）に出品した。選考の結果、本校より3名の生徒が入選を果たした。

- ・全国納税貯蓄組合連合会会長賞 「足湯で分かった税金の大切さ」
- ・熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞 「正しい税金がつくるもの」
- ・玉名市教育長賞 「支えてくれる税金」

〈校長室での表彰式〉



（４）社会科の授業での取り組み

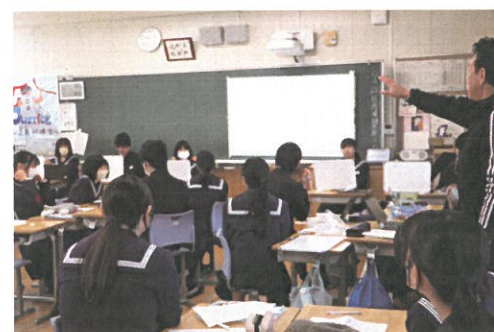
租税教育実践校として、第3学年公民的分野「第4節 財政と国民の福祉」において、標準的な学習内容（税の種類、累進課税制度、社会資本と政府の役割、公債発行と国家財政の課題等）を網羅するとともに、さらに一步踏み込んだ探究を目的として、以下の特設授業を展開した。

【特設授業（4時間）】

- ・テーマ：日本の税制を理解し、課題と未来の姿を考えよう！
- ・構成：今年度独自のカリキュラムとして、以下の5つのステップで授業を構成した。
 1. 身近な公共サービスの調査：自身の生活圏内にある受益の把握。
 2. 日本の税制の仕組み：現行制度の構造的な理解。
 3. 税金と国の財政：国債残高と国の資産・負債のバランスシートに着目した多角的分析。

4. 日本の財政・税制の課題抽出： 少子高齢化等の社会情勢との関連付け。
5. 未来の税制・財政デザイン： 解決策の提案と主権者としての意思決定シミュレーション。

【特設授業の様子】



【授業後の感想】

- ・ 今まであまり税金について考える機会がなかったけど、今回の授業を通して新しい学びを得ることができました。日本の税制や財政の課題について調べていくうちに、税金がどれだけ自分たちの生活に深く関わっているか、必要不可欠なものかがわかりました。また、将来的に私たちも納税者になるので、他人事と思わず今の課題や現状を知ることによって理解を深めることが大切だと思いました。
- ・ 私達は日頃の生活で税金の恩恵を多く受けていることに気が付きました。その恩恵は想像よりも大きかったです。その一方で今の日本の税収、財政についての課題も少なくはないと感じました。一番納得した意見は、適当にお金をばらまくのではなく、生活の困っていて本当にお金が必要な人に必要なだけ補助

をすることで納税者が増え、好循環になるという考え方です。

- ・こんなにも身近にある税金だけど、深掘りする機会がなかなかないため、今回の授業を通して、「これからの税金との向き合い方」や「国債に対する考え方」などを学ぶことができました。みんなの意見を聞くことで視野が広がり楽しかったです。
- ・私は今回税について学習して、「税」は私達の生活に一番身近な存在であることを再認識することができました。今回調べた公共サービスはモノでも直接的なサービスでもないけれど私達の生活の一番の基盤だということがわかりました。
- ・また、今日の全員の発表を聞いて、税の問題や国債についてや財政の見直しなどすごい難しい問題についてもちゃんと調べて一人ひとり意見をきちんと述べていて、聞いていて新しく知ることもあったり、納得する意見もあったりとすごい有意義な時間を過ごすことができました。これから私達は税を払う側になるので、今回しっかり税について学習できてよかったです。
- ・私達が身近に感じる税はやっぱり消費税なんだと改めて感じました。税金の集め方や使い方にはいろいろな意見がでて、確かにと納得することがたくさんありました。どうすれば経済が良くなるのかと考えることは難しかったですが、私達の生活に影響があるので、真剣に考えました。税が、私達の生活を支えているので、税を払っている私達がきちんと税の使い道を知り、考えることはとても大切なことだなと感じました。これからの社会で、今どういう経済対策をしているのかなど注意してニュースを見ようと思いました。また自分でもどういう税があるのかを調べていきたいと思いました。
- ・今回の学習で将来世代である私達が今の日本についてしっかり考えることの大切さを感じました。今までニュースをあまり見ず、「増税」や「103万円の壁」などの言葉だけしか知りませんでした。しかし社会の授業を通して財政やお金について学ぶ中で私達の世代がしっかり知識を得て考えることで未来が良くなっていくとわかりました。これからはニュースなどを積極的に見て自分の意見を持ちたいです。
- ・今回の学習を通して私は税金を遠い存在に感じてしまっていた生活に直結するもので遠くはないんだと感じました。より良い日本にするための方法を

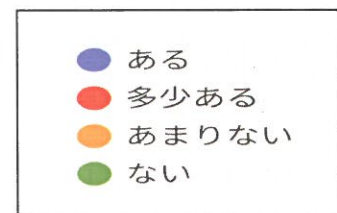
考えるのがとても難しく政治家の人たちも考えるのが大変なんだろうなと思いました。国民が納得して納税していくためにも様々な税や国債などに対する知識を持つことが大切だと感じました。だから国民がそういったことを学べるようにしてほしいなと思います。私自身も少し前まで国債に対して悪いイメージを持ってしまっていました。だからそういったことが少しでも改善されたらいいなと思います。みんなが平等で公平で納得できる税金というものは難しいと思うのでできるだけみんなが納得できる方法が見つかったらいいなと思います。わたしたちが今学習できているのは、安全に暮らせているのは、快適に暮らせているのは税金があるからだということを今回の租税教育で再認識しました。だからこれからは感謝をもっとしていきたいし、将来私もしっかり納税できる大人になりたいです。

3 令和7年度の実践成果と今後の課題

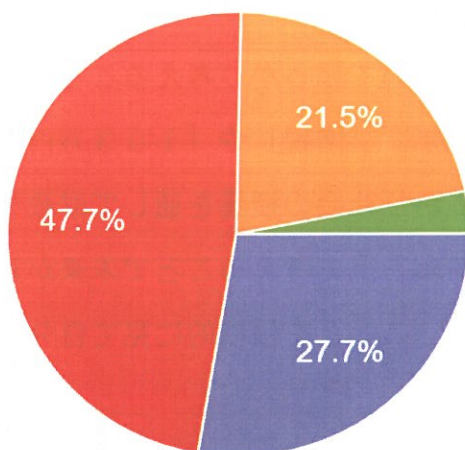
(1) アンケート調査の結果（令和7年5月と令和8年1月）

租税教室や税についての作文、社会科の授業における取組を通し、生徒の税に対する意識や知識がどのように変化したのかを調査した。以下のグラフはその結果である（左が5月、右が1月）。

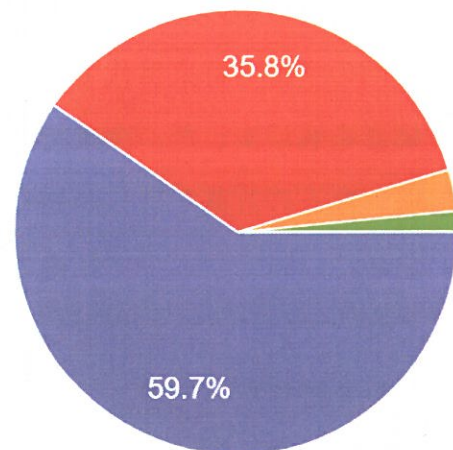
- ・ 1 税金について、興味関心がありますか。



【5月】



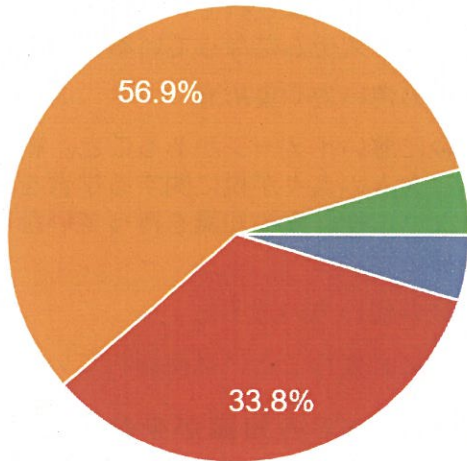
【1月】



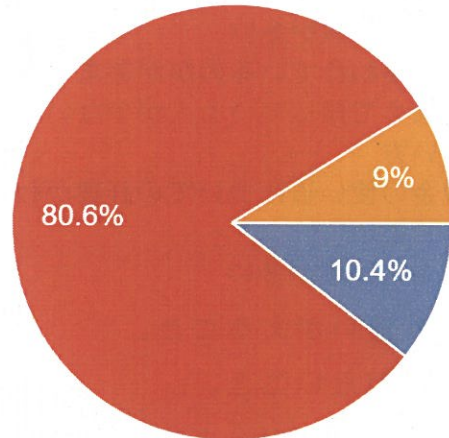
・ 2 税金のことに関する知識はありますか



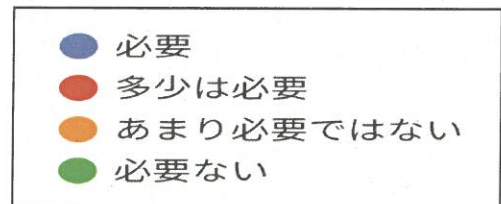
【5月】



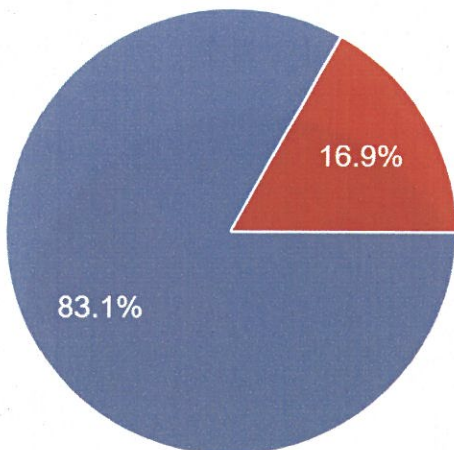
【1月】



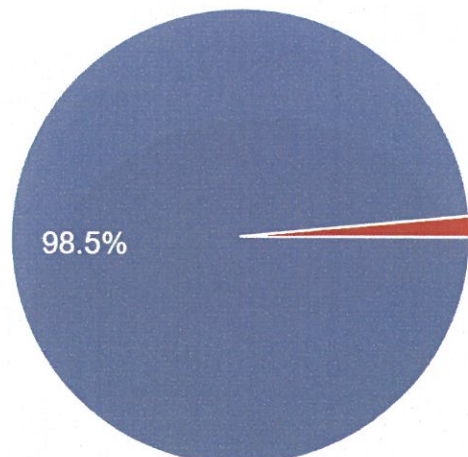
・ 3 税金に関する知識は必要と思いますか。



【5月】



【1月】



・ 4 税金に関する問題点は何だと思えますか。

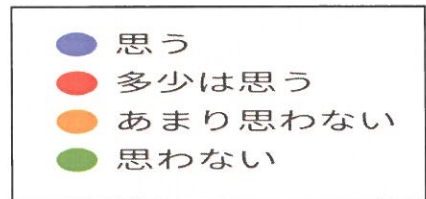
【5月】

- ・ 高すぎる
- ・ 収入に対して納めなければならない割合が高すぎる。正しい使われ方をされているかわからない。
- ・ 多く稼いでいる人から沢山税金を取るところ。
- ・ 税金が多すぎる、高すぎる
- ・ 必要性を感じないものがある
- ・ 納める種類が多い
- ・ 何に使われているのかがあまり報道されていなくて知っている人が少ない。
- ・ 使い方
- ・ 税金の使い道についての詳細がわかりにくいこと。
- ・ 税金の種類が多い
- ・ 無駄遣いがあること。
- ・ 知識がないこと。
- ・ 消費税が上がっていること。

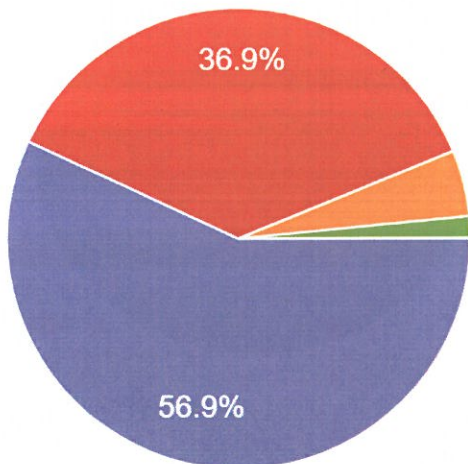
【1月】

- ・ 有効的な使い方がされていない場合がある。国民への教育がまだ不十分である。
- ・ 税金の使い道があまり知られていない
- ・ 納税額、税金の使い道
- ・ 税が高いこと 政府が無駄遣いをしていること
- ・ 少しずつ改善はされているけど、富裕層が有利なシステムになっていること
- ・ 税金の使い方や集め方
- ・ 税金に悪いイメージがあること。納税者である大人の人々が税に関する学習を受けていないこと。税の知識を持っていない人がいること。
- ・ 税金の使い方の透明化
- ・ 本当に必要なことには使われていない
- ・ 税についての知識が少ない人が多いことで、悪いイメージがあること。

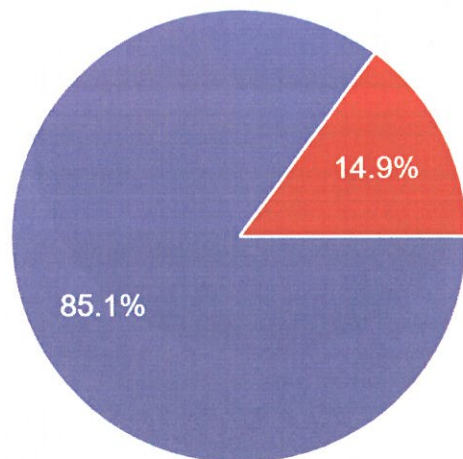
・ 5 将来、税金をきちんと納めたいと思えますか。



【5月】



【1月】



【5月】

- ・ 義務だから
- ・ 捕まるから
- ・ 国のため
- ・ 罰則が厳しいから。
- ・ 逮捕されるから
- ・ 収めたほうが良いとは思っているから
- ・ 日本国民だから
- ・ 病院の診察費などがぜいきんからでているから
- ・ 救急車とか呼べないと怖いから。
- ・ 正当な理由で使われているのかやきちんと国のために使われているのかが今問題視されているから。
- ・ よくわからないけど納めたほうが良いのかなと思ったから
- ・ 教科書など、税金によって無償でもらえる
- ・ 税金があるからただで使える施設があるから。でも、政治家が脱税した話を聞くとややもやした気持ちになる。
- ・ 税金の制度自体は悪くないから。
- ・ 未来の子どもに負担をかけないため。
- ・ 正しい税金なら納めたいと思う。

【1月】

- ・ 今回の租税教室で、税金に関する知識をえて、収めるべきものだとわかったから。
- ・ 学習してみて変えるべきこともあったが、僕たちの生活に税金は必要不可欠だということも分かったから。
- ・ 自分は日本国民だから。納税は義務だから。
- ・ 将来の子供のためになることなら収めたいと思うから
- ・ 払わないと国がやっていけなくなるかもしれないから。
- ・ 国を良くしたいから
- ・ 税金がなければ公共サービスが途絶えて安心した生活が送れなくなってしまうため、しっかりと納めてもっと国を良くしてほしいから。
- ・ 今までも、これからも、私たちは税に助けられていくだろうから
- ・ 税金は必要なものであると思うから。困っている人を助けたいから。
- ・ 税金がなければ、人々の暮らしが破綻する恐れがあるから。

(2) 実践の成果

本校独自の特設授業および租税教室等の取り組みを通じ、生徒の税に対する意識は「他人事」から「自分事」へと大きく変容した。具体的な成果は以下の3点に集約される。

1. 税と生活の結びつきの再認識 (受益の自覚)

生徒の感想に「税金がどれだけ自分たちの生活に深く関わっているかわかった」「恩恵は想像よりも大きかった」とあるように、身近な公共サービスの調査から入ることで、税が抽象的な徴収物ではなく、日々の生活基盤を支える必要不可欠なものであるという実感が醸成された。これは「感謝」や「納得して納税したい」という意識変容に直結している。

2. 財政構造への多角的な理解の深化

標準的な学習内容にとどまらず、バランスシートや国債残高に着目させたことで、単なる知識の習得を超えた深い学びが実現した。

「国債に対する悪いイメージが改善された」「適当なバラマキでは

なく、必要な人への補助による好循環」といった感想からは、国の借金や歳出について、感情論ではなくシステムや循環の視点で捉えようとする姿勢が見られた。

3. 主権者意識の芽生えと行動への意欲

多くの生徒が「ニュースを積極的に見て自分の意見を持ちたい」「将来しっかり納税できる大人になりたい」と述べている点は大きな成果である。18歳選挙権を見据え、社会の課題を自らの課題として捉え、情報を収集し判断しようとする主権者としての意識（シチズンシップ）が高まったと言える。

(3) 今後の課題

実践を通して見えてきた課題は、思考の深化と持続性の観点から以下の通りである。

1. 複雑な財政課題に対する思考の補助

「経済を良くする方法を考えるのは難しかった」「解決策を考えるのが大変」という声も聞かれた。少子高齢化や社会保障費の増大など、正解のない問いに対して、生徒が挫折せずに思考を深められるよう、多角的な視点（公平性・効率性など）を提供する補助資料や、思考ツール（ロジックツリー等）の活用など、授業における足場の掛け方をさらに工夫する必要がある。

2. 学びの継続性とメディアリテラシーの育成

生徒からは「ニュースを見ようと思った」という前向きな意欲が示されたが、これを一過性のものにせず、継続的な習慣として定着させることが課題である。「103万円の壁」などの時事用語への反応も見られたため、溢れる情報の中から正しい情報を取捨選択し、批判的に読み解くメディアリテラシー教育との連携を、社会科の授業全体を通して強化していく必要がある。

3. 自分なりの納得解を導くプロセスの重視

「みんなが納得できる税金は難しい」という気づきは重要である。今後は、対立する利益や意見がある中で、どのように合意形成を図るかという、より実践的な合意形成シミュレーションの要素を取り入れ、多様な意見の中で「自分なりの納得解」を論理的に構築する力をさらに高めていきたい。